

事務事業名	在宅高齢者自立支援事業（軽度生活支援事業）			担当	健康福祉部 福祉課 高齢者福祉係
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり		電話番号	0285-83-8195
施策名	5	高齢者の自立と社会参加の支援		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業	
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ
法令根拠	真岡市軽度生活援助事業実施に関する規則				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成14 年度～）
予算科目	1. 一般会計	3. 民生費	1. 社会福祉費	3. 老人福祉費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 在宅のひとり暮らし高齢者等に対し、軽易な日常生活上の援助を行うことにより、高齢者の自立と生活の質の確保を図り、高齢者の福祉の向上に資するため行う。 援助は、真岡市シルバー人材センターに委託している。 利用対象者は、市内に居住する在宅のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯で、日常生活上の援助が必要な方である。ただし、介護認定を受けていない方とする。 援助内容は、外出時の援助、食事、食材の確保、洗濯物搬出入、庭木等家周りの手入れ、家屋内の整理、整頓等である。 利用は、1回2時間、週2回を限度とし、1時間当たり100円の利用者負担金を徴収する。 				

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 手続（申請受付 内容審査(自宅訪問等) 利用決定 シルバー委託 援助委託料支払い） 24年度計画 平成23年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
ア	援助を行うヘルパーの人数	人	13	18	17	21	21
イ	市の委託料	千円	1,438	1,740	1,950	2,364	1,980
ウ							
エ							
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯で、日常生活上の援助が必要な方	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
ア	ひとり暮らし高齢者世帯数	世帯	669	1,087	1,167	1,211	1,220
イ	高齢者のみ世帯数	世帯	623	1,166	1,248	1,248	1,250
ウ							
エ							
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 快適な生活を送ってもらう。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
ア	利用世帯数（年度末）	世帯	18	21	23	30	30
イ	延べ利用時間数	時間	1,796	2,168	2,428	2,946	3,000
ウ							
エ							
オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 高齢者の自立と生活の質の確保を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
ア	利用世帯数 / 高齢者世帯数	%	1.4	0.9	0.9	1.2	1.2
イ							
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	177	217	243	240
	一般財源	千円	1,261	1,523	1,707	2,124	
	事業費計 (A)	千円	1,438	1,740	1,950	2,364	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	120	120	120	120
		人件費計 (B)	千円	501	487	512	509
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,939	2,227	2,462	2,873	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成14年度に、軽易な日常生活上の援助を行うことにより、高齢者の自立と生活の質の確保を図り、高齢者の福祉の向上に資することを目的に開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 健康で自立した生活を送ってもらうことは、高齢者福祉の向上に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 高齢者福祉の向上は、市政の重要な柱の一つなので、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 対象者を軽易な日常生活上の援助が必要な高齢者に限定しているため、適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 援助が必要な方、全員を対象としているため、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 高齢者福祉の向上は、市政の重要な柱の一つなので、廃止・休止は難しい。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の事業費で委託しているため、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人件費で事務処理をしているため、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 利用者からは、受益者負担金を徴収しているため、公平、公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							